

2019年度第2回J-STAGEセミナー
2019.10.21 JST東京本部

日本産業衛生学会編集委員会の国際動向への対応

JAMJE 医学雑誌編集ガイドラインへの対応事例



日本産業衛生学会編集委員会委員長
堤 明純

COI

- 本報告にあたり、発表者がCOIとして申告すべき事項はありません。
- 資料作成に当たっては、ワイリー・パブリッシング・ジャパン株式会社およびレタープレス株式会社の各担当者様のご協力をいただきました。

アウトライン

- 背景
- JAMJE (Japanese Association of Medical Journal Editors; 日本医学雑誌編集者会議) 医学雑誌編集ガイドラインへの対応状況(とくに倫理面)
- COPE (Committee on Publication Ethics; 出版倫理委員会)から公表されている手順への対応
- 課題



目的

産業衛生に関する学術の振興と、勤労者の職業起因性疾患の予防及び健康維持増進を図り、もってわが国の学術と社会の発展に寄与すること（公益社団法人日本産業衛生学会定款第4条）

会員数：約8,000名（2019年5月現在）

主な活動：年2回の学術集会、学会誌年6回発行

全国を9地方会に分け、地域に根差した活動を展開

4つの部会（産業医部会、産業看護部会、産業衛生技術部会、産業歯科保健部会）が設置され活発に活動

認定制度：専門医制度、産業保健看護専門家制度

重点活動事項

産業衛生活動の場となる企業等の事業場や各種労働現場は、技術革新やグローバル化によって大きく変化し、そこで働く人の健康課題もそれらの変化によって大きく影響を受けている。

2019年に創立90周年を迎えた本学会は、100周年となる2029年までの10年間に於いて、以下を重点活動事項として定め、推進する。

基盤

- 国内外のすべての働く人を対象とした産業衛生の推進
- 時代に合った研究および実践活動の基盤となる産業衛生専門職の倫理綱領の見直し

学術活動

- 科学技術の進歩や技術革新を見据え、産業衛生に対するニーズの変化を踏まえた学術活動の推進
- 学術活動によって生み出される情報の積極的な発信
- 増大する学術情報の集約化と実践に繋がる価値ある情報の提供

実践活動

- 学術活動の成果を活用したエビデンスに基づく実践活動
- 多様化する働く人の背景と企業の価値観やニーズに対応する質の高い実践活動
- 革新的な各種技術の実践活動への応用
- 人材の育成と多様化
- 常に変化する産業社会に対応できる高度専門職の育成
- 学術活動および次世代育成を担う人材の養成
- 学会構成員の学際化とチームとしての協働の推進

発信

- 国内外における社会への産業衛生の価値の発信や行政機関への施策の提言
- 会員を含めた産業衛生従事者の実践力向上に繋がる情報の発信
- 産業衛生に関わる学会員以外の人材の資質向上の支援や教育機関における産業衛生教育への貢献



Journal of Occupational Health (JOH)



スコープ

- 産業衛生学における英文専門誌
- わが国およびアジア諸国を中心に、世界の産業衛生学の優れた研究成果の国際発信

読者専門層

- 医学
- 看護学(産業保健・看護)
- 産業衛生工学
- 人間工学
- 中毒(毒性学)・化学物質
- 物理的有害要因(暑熱・放射線)
- 生物的有害要因(感染症)
- メンタルヘルス(過労死)

背景

国際学術雑誌を取り巻く状況

- オープンアクセス化の隆盛
- 問題意識: 数多くのOAジャーナルに埋もれないように

編集方針(2014編集委員会)

- 誇れる英文誌に
- 良い雑誌にする(良い論文が投稿される雑誌にする)
- 質を維持する
- 学会員の負担とならないAPC



背景

平成30年度科学研究費助成事業(研究成果公開促進費)「国際情報発信強化」

産業衛生学に関わる研究成果を電子媒体を活用し包括的に国際情報発信強化する取り組み

JAMJE 医学雑誌編集ガイドラインへの対応状況

1. 編集者の自由と責務

- 1-1. 医学雑誌と編集者の自由と権利の擁護
- 1-2. 編集者の責務
- 1-3. 掲載内容の設定

日本医学会
医学雑誌編集ガイドライン



2015（平成27）年3月

日本医学会
日本医学雑誌編集者会議

JAMJE医学雑誌編集ガイドラインへの対応状況

2. 医学雑誌の質の向上への取り組み

- 2 - 1. 用語の整理・統一
- 2 - 2. 国際的な基準への準拠
- 2 - 3. 査読システムの改善
- 2 - 4. 編集に関する意思決定・著者とのコミュニケーション
- 2 - 5. 臨床試験の公的機関への登録
- 2 - 6. 臨床研究における“ sponsor（主宰者） ” と“ funder（資金提供者） ” の区別
- 2 - 7. ランダム化比較試験におけるCONSORT声明など各種研究デザインにおける報告ガイドラインの遵守
- 2 - 8. ミスコンダクト（科学における不正行為）、懸念表明、撤回

JAMJE医学雑誌編集ガイドラインへの対応状況

3. 著者と医学雑誌・編集者の倫理規範の策定

- 3 - 1. オーサーシップ(著者資格)
- 3 - 2. Conflicts of Interest (COI) (利益相反)
- 3 - 3. 患者のプライバシー, 機密保持
- 3 - 4. 研究参加者と実験動物の保護
- 3 - 5. 重複出版 (acceptable secondary publication)
- 3 - 6. 著作権への配慮

国際情報発信の取組内容・実施計画

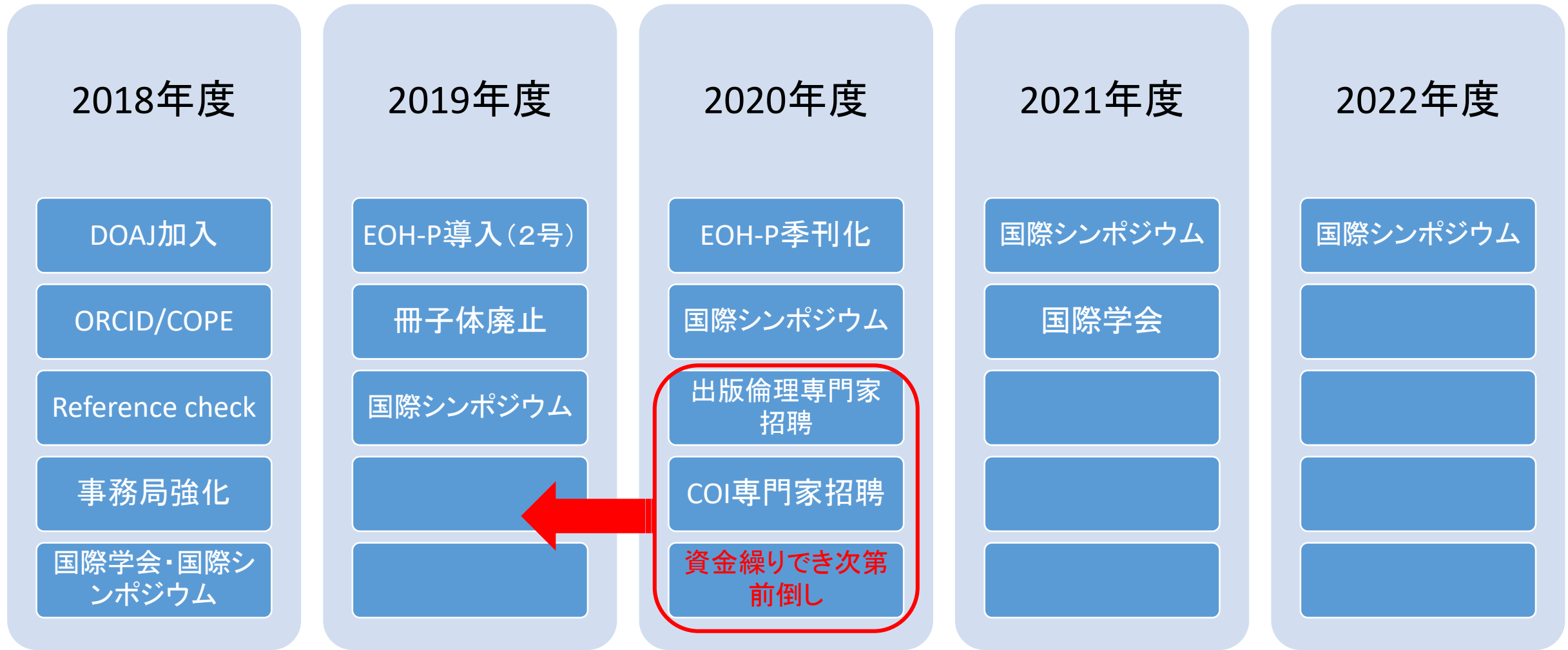
科研費助成以前の取り組み

- 1996 英文率100%雑誌
- 海外関連機関へ冊子配布
- 2002 J-Stageを媒体としたフリーアクセス化
- 2013 CrossCheck 導入
- 2014 編集体制の改革
 - フィールド制の導入
 - 査読遅延論文への対応強化
- 2016 インパクトのある論文の戦略的掲載
- 2017 オープンアクセス化

科研費助成以後の取り組み

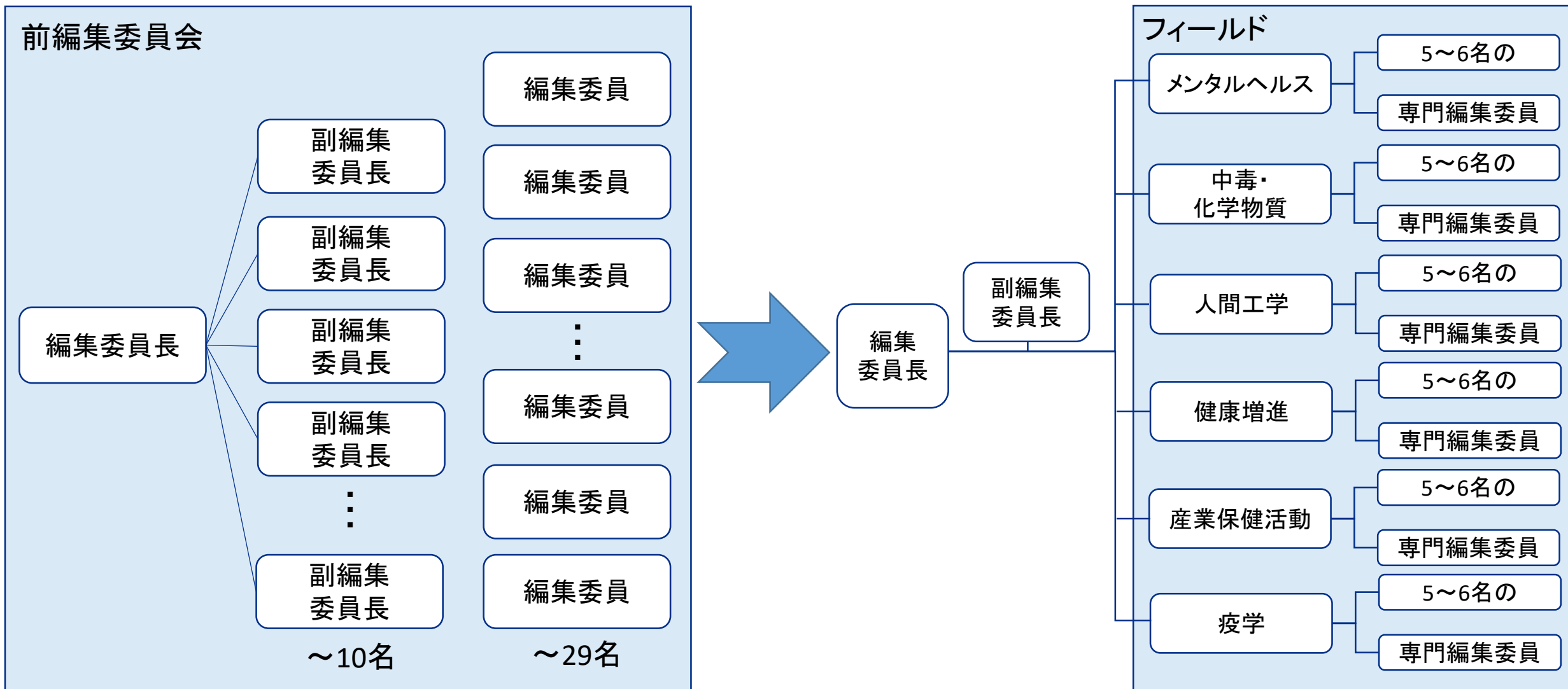
- インパクトのある論文の戦略的掲載
- OA誌としての信頼性と認知度強化
 - PubMed Centralへの登載
 - Creative Commons導入
 - Directory of Open Access Journals (DOAJ)への加入
- カスケードジャーナルEOH-P導入
- 編集委員会強化(国際化と効率化)
- 編集事務局機能の強化
- 国際的な広報活動

実施計画



引用価値の高い論文の戦略的掲載・海外編集委員の招聘と拡充

編集体制の強化：フィールド制の導入



編集委員長が全ての論文に目を通し、論文担当の副編集委員長を割り当て。副編集委員長は、ジェネラルに対応し、編集委員と学会員から査読委員を選出。

投稿される論文の専門領域に責任者を配置し、その論文の編集責任者になる。その専門分野の専門編集委員に論文を割り当て、外部の査読者を選出。正副編集委員長は論文担当もしながら、マネジメント、企画、渉外、トラブル対応を行う。

編集体制の改革: 査読遅延論文への対策強化と効果

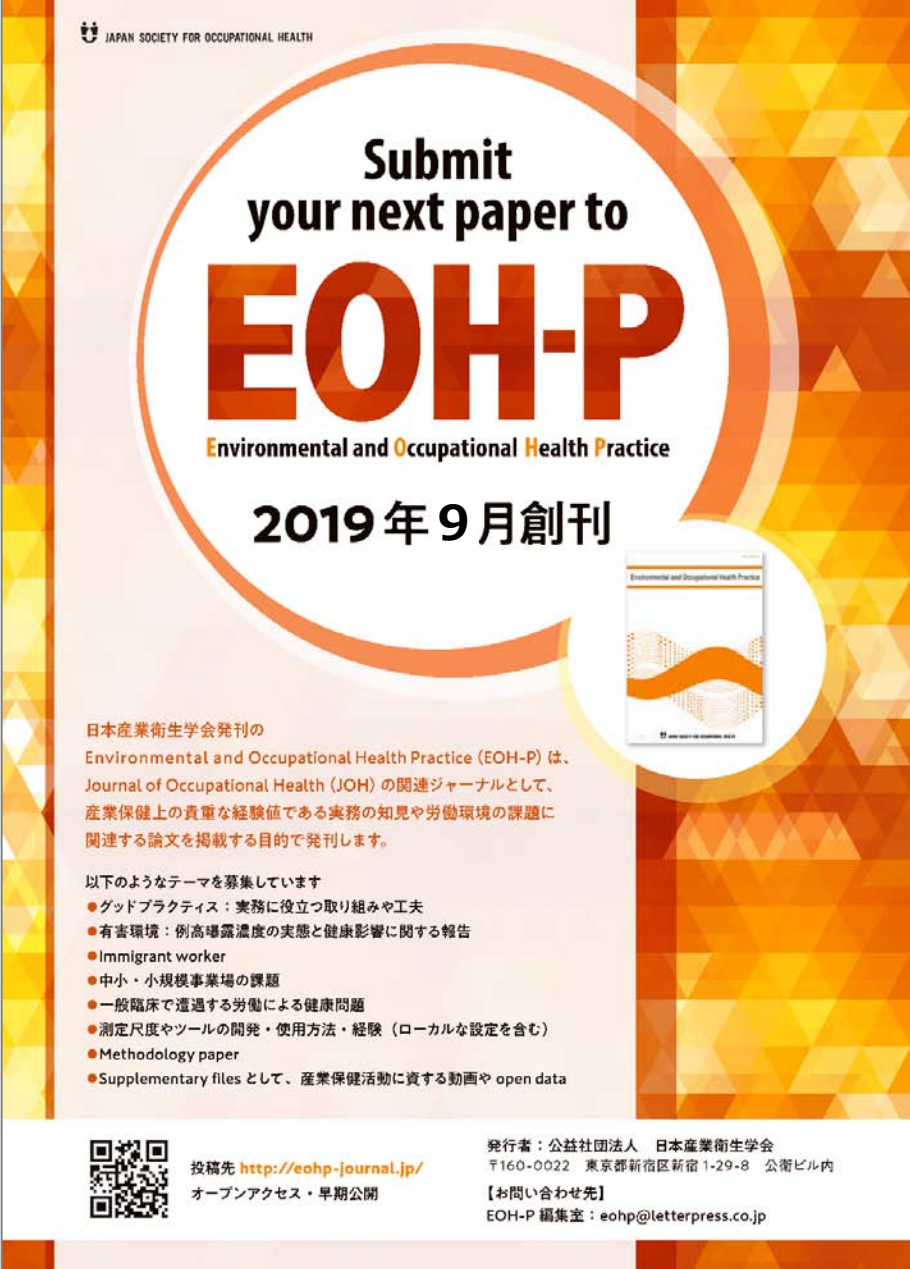
査読遅延は編集委員会の責任という意思を統一し、定期的なリマインドと、ある編集レベルで止まっていれば、その上のエディターが介入するシステムとした

Year	Submission	Accept	Acc. Ratio	Review performance (days to final decision)			
				Average	Median	Minimum	Maximum
2011	221	50	25.0	73	34	0	574
2012	270	55	22.0	64	27	0	587
2013	262	64	23.8	58	28	0	400
2014	254	70	30.3	72	43	0	580
2015	304	66	23.4	66	16	0	672
2016	270	70	25.1	48	17	0	326
2017	282	64	22.7	55	22	0	316
2018	244	58	23.8	55	32	0	414

カスケードジャーナル

Environmental and Occupational Health Practice

- 編集の負担とジレンマ
 - 実務＝貴重な経験値
 - 学術誌用に論文水準を向上させるような査読努力
 - 雑誌の評価に貢献しない
- 古くて新しい労働環境問題
 - 有害物質濃度など、過去のデータはあるが、現存する問題について提示する場所がない
- 実務者の業績に報いる



JAPAN SOCIETY FOR OCCUPATIONAL HEALTH

Submit
your next paper to
EOH-P
Environmental and Occupational Health Practice

2019年9月創刊

日本産業衛生学会発刊の
Environmental and Occupational Health Practice (EOH-P) は、
Journal of Occupational Health (JOH) の関連ジャーナルとして、
産業保健上の貴重な経験値である実務の知見や労働環境の課題に
関連する論文を掲載する目的で発刊します。

以下のようなテーマを募集しています

- グッドプラクティス：実務に役立つ取り組みや工夫
- 有害環境：例高曝露濃度の実態と健康影響に関する報告
- Immigrant worker
- 中小・小規模事業場の課題
- 一般臨床で遭遇する労働による健康問題
- 測定尺度やツールの開発・使用方法・経験（ローカルな設定を含む）
- Methodology paper
- Supplementary files として、産業保健活動に資する動画や open data

発行先 <http://eohp-journal.jp/>
オープンアクセス・早期公開

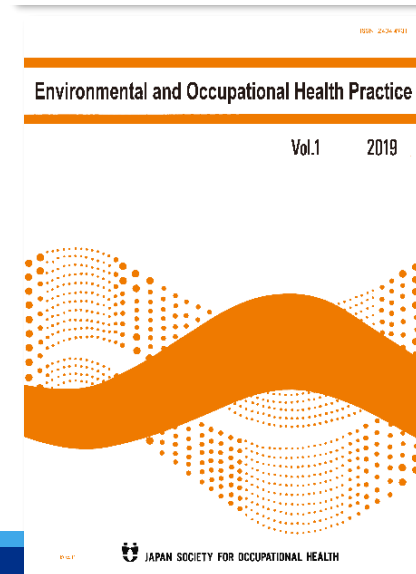
発行先：公益社団法人 日本産業衛生学会
〒160-0022 東京都新宿区新宿 1-29-8 公衛ビル内
【お問い合わせ先】
EOH-P 編集室：eohp@letterpress.co.jp

カスケードジャーナルの導入

学術的な側面から引用されにくい、貴重な経験値である実務上の知見や発展途上国の労働環境の課題をJOH関連誌として切り分けて出版



- メンタルヘルス
- 中毒・化学物質
- 人間工学
- 健康増進
- 産業保健活動
- 疫学
- ケースレポート



- 実務上のグッドプラクティス
- 発展途上国の有害労働環境に関する報告
- “Occupational health in the world”
- 臨床で診る作業関連疾患
- Data profile, Video

- 学術情報とともに実務を含めた研究成果の包括的な国際発信力の向上
- 実務の知見蓄積による新たな学術的シーズの萌芽
 - EOH-Pの論文からJOHにふさわしい研究への発展
- 実務家の評価向上
- 編集効率の向上



オープンアクセス誌としての信頼性と認知度強化

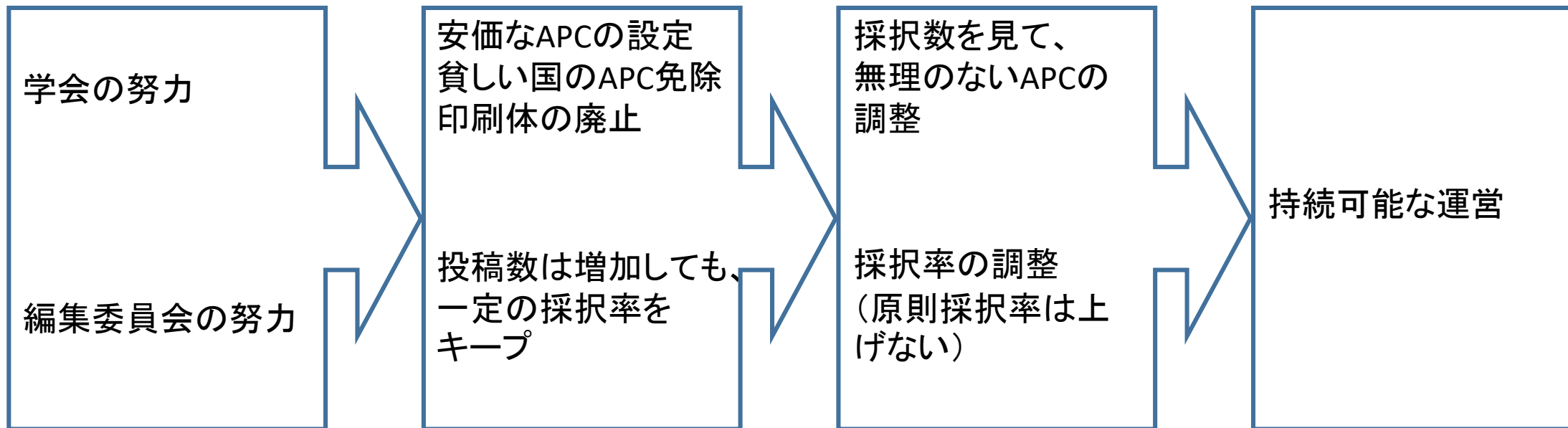
- Directory of Open Access Journals (DOAJ) 加入
- ORCIDコンソーシアム参画
- Committee on Publication Ethics (COPE) メンバー
- Reference Check 導入
- PMC 登載 (EOH-P)
- 関係学会 (2018 国際産業保健学会における広報活動)
- 事務局強化

The screenshot shows the Wiley Online Library interface for the Journal of Occupational Health. At the top, it says "Wiley Online Library" and "Access by Kitasato University". There is a search bar and a "Login / Register" link. The journal title "Journal of Occupational Health" is prominently displayed with an "Open Access" badge. Below the title, it lists the editor "Dr. Akizumi Tsutsumi", an impact factor of 1.285, and the journal's ranking. A "LATEST ISSUE" section shows "Volume 61, Issue 3, May 2019". A navigation bar includes "HOME", "ABOUT", "CONTRIBUTE", and "BROWSE". The main content area is titled "Articles" and has tabs for "Most Recent" and "Most Cited". Two articles are listed, both marked as "Open Access":
1. "Allergen-specific IgE to recombinant latex allergens in occupational allergy diagnostics" by Ewa Nowakowska-Świrta, Marta Wiszniewska, and Jolanta Walusiak-Skorupa, published in May 2019.
2. "The effects of a 120-minute nap on sleepiness, fatigue, and performance during 16-hour night shifts: A pilot study" by Sanae Oriyama, Yukiko Miyakoshi, and Md Moshir Rahman, published in May 2019.
On the right side, there are buttons for "Submit an article" and "Get Content alerts", and a box indicating the journal is published on behalf of the Japan Society for Occupational Health with its logo.

オープンアクセス化と経費に関する検討

著者には一定の負担 (article processing charge: APC) を求めるものの、
学会収益は追及しない方針でシミュレーション

APC 8万円 (学会員6万円)



..... 出版諸経費のフォロー..... →

オーサーシップ

ICMJE 定義に従うことを投稿規定で明示

The journal follows the [ICMJE definition of authorship](#), which indicates that authorship be based on the following 4 criteria...

<https://onlinelibrary.wiley.com/page/journal/13489585/homepage/author-guidelines>

All authors listed in the manuscript must meet the following criteria of contribution described by “[Recommendations for the Conduct, Reporting, Editing, and Publication of Scholarly Work in Medical Journals](#)”

https://eohp-journal.jp/instruction_for_authors/

投稿規定上で、JOHがCOPEのメンバーであることを明確に謳い、更に、著者向けに出版倫理の基本10か条と、エディター向けに出版倫理ガイドラインを案内

This journal is a member of the Committee on Publication Ethics (COPE). Note this journal uses iThenticate's CrossCheck software to detect instances of overlapping and similar text in submitted manuscripts. Read Wiley's Top 10 Publishing Ethics Tips for Authors here. Wiley's Publication Ethics Guidelines can be found here.

<https://onlinelibrary.wiley.com/page/journal/13489585/homepage/author-guidelines>

著者ガイドラインのほか査読者用に別途簡易版のガイドラインを策定

The Environmental and Occupational Health Practice (EOH-P) greatly appreciates the generous contribution of reviewers to improve the journal's quality and reputation.

The Guidelines for Reviewers help our reviewers prepare their reviews, which can be submitted via ScholarOne Manuscripts.

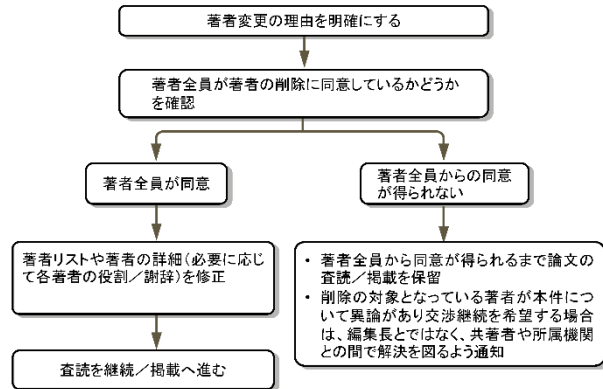
EOH-P adheres to the principles and guidelines of the Committee on Publication Ethics (COPE).

- Competing interests
- Timing
- Confidentiality
- Criteria for Publication
- Writing the Review
- Anonymity
- Become a Reviewer

Committee on Publication Ethics (COPE: 出版倫理委員会)
(<http://publicationethics.org/>)から公表されている手順への対応例

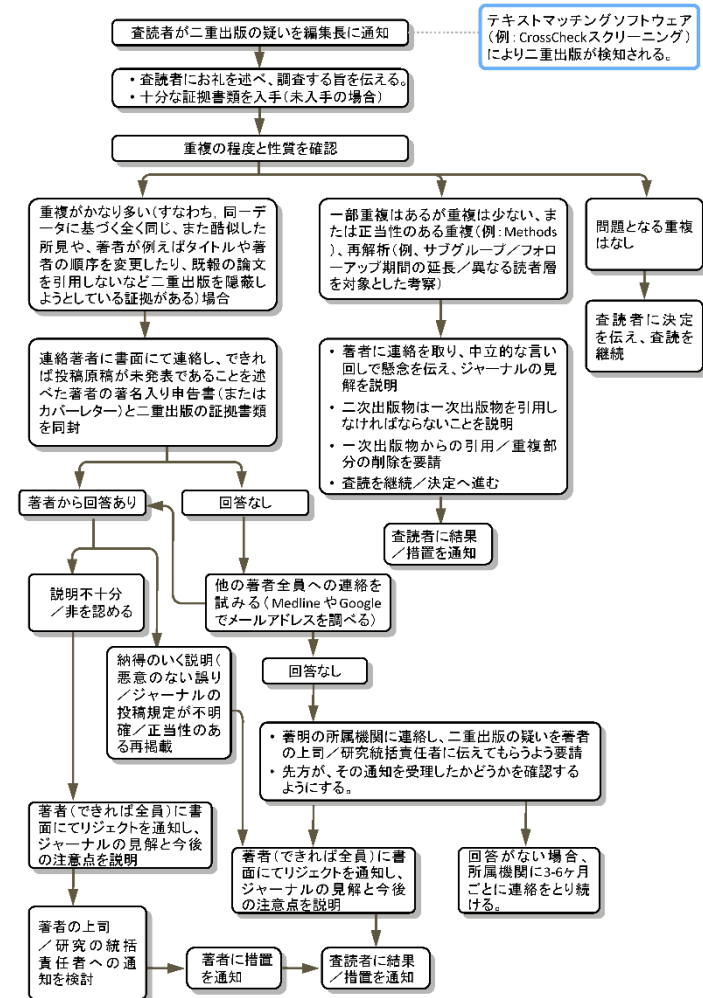
1. 連絡責任著者[corresponding author]が掲載前に著者の削除を要求した時
2. 多重投稿の疑い例 (Crosscheck)
3. 投稿原稿(研究)に倫理的問題の疑いがある例
4. 査読者が投稿原稿にCOIが明示されていないと疑った時

(b)連絡著者が論文掲載前に著者の削除を要請してきた場合
Corresponding author requests removal of author before before publication



注:最も重要なのは、論文から名前が削除される著者に事実確認をし、書面による同意を得ることである。

(a)投稿原稿に二重出版の疑いがある場合
Suspected redundant publication in a submitted manuscript



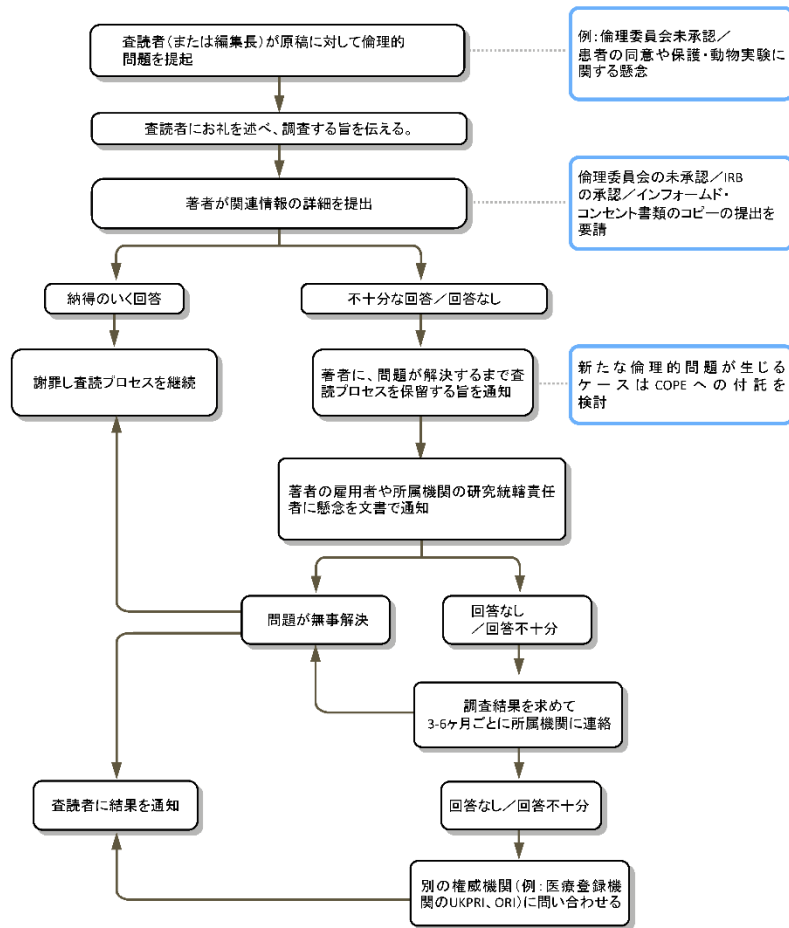
注:
・投稿規定には、二重出版に関するジャーナルの方針を記載すること。
・所属機関の方針を尋ねることは役立つ場合がある。
・著者に、原稿はオリジナルであり、他で出版されていないことを確認するよう求める。
・国際医学雑誌編集委員会(ICMJE)は翻訳を容認するが、オリジナルの引用が必須であると勧告している。

参考文献:
COPEの二重出版についての事例:[http://publicationethics.org/cases/?q\[0\]=im_field_classifications%3A829](http://publicationethics.org/cases/?q[0]=im_field_classifications%3A829)

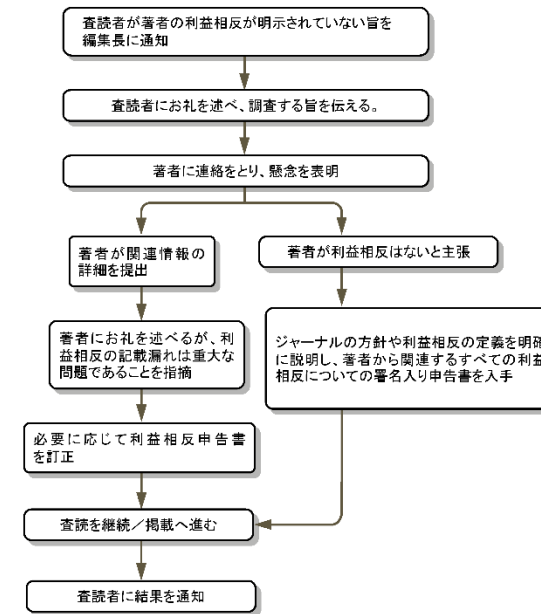
サイトのリンクの紹介は利用者への便宜のためであり、COPEはサイト内のコンテンツに責任を負わない。



投稿原稿に倫理的問題の疑いがある場合の対応
 What to do if you suspect an ethical problem with a submitted manuscript



利益相反(COI)が投稿原稿に明示されていないのではないかと査読者が疑いを抱いた場合の対応
 What to do if a reviewer suspects undisclosed conflict of interest (Col) in a submitted manuscript



課題

- 産業保健は、公害や労働災害等訴訟や企業利益に関わる情報が扱われる領域であり、とくに著者と所属組織との関わりについて整理し、最新の動向に留意しながら利益相反指針について議論を重ねている。
 - The journal requires that all authors disclose any potential sources of conflict of interest.
- DOAJ加入
- 編集委員、査読者へのポリシーの浸透を含め実効面の継続的なモニター（確認・指示）の必要性